

令和3年度 岡山県立邑久高等学校 評価書

- 1 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫
- 2 地域連携教育の深化…教科における地域連携の推進とボランティア等への主体的参加
- 3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び部活動の推進

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価		学校関係者評価				
					達成状況(中間)	評価	達成状況(最終)	評価	結果の分析及び改善方策	評価の妥当性	改善方策の適切さ
1	教務課	授業環境の整備と授業規律の確立。	・授業「授業規律のスタンダード」(整理整頓・ベル着・先言後礼)の教室掲示による生徒の意識高揚をはかる。また年次と協力して、教員による教室美化、ベル着の呼びかけ、先言後礼を行う。	・生徒、教員対象のアンケートで取り組みの定着度を検証し、生徒・教員ともに肯定的回答が80%以上。 (R2:生徒(3月1・2年次対象)71.3%、教員80.4%)	・生徒アンケートの結果では「整理整頓」…よくできた55.3%、だいたいできた37.5%、合計92.8%「ベル着」…よくできた52.5%、だいたいできた43.1%、合計95.6%「先言後礼」…よくできた46.7%、だいたいできた44.2%、合計90.9%というように肯定的回答がどの項目も90%を越えていた。教員アンケートの結果でも「整理整頓」…よくできた4.3%、だいたいできた73.9%、合計78.26%「ベル着」…よくできた26.1%、だいたいできた56.5%、合計82.6%「先言後礼」…よくできた13.0%、だいたいできた56.5%、合計69.5%であった。基本的には目標が達成できているが、今後「先言後礼」について意識して取り組ませる必要がある	B	・2学期生徒アンケートの結果「整理整頓」…よくできた65.3%、だいたいできた30.2%、合計95.5%「ベル着」…よくできた49.3%、だいたいできた41.8%、合計91.1%「先言後礼」…よくできた43.3%、だいたいできた45.5%、合計88.8%というように肯定的回答がどの項目も90%を越えていた。 ・教員アンケートの結果でも「整理整頓」…よくできた13.0%、だいたいできた82.6%、合計95.6%「ベル着」…よくできた30.4%、だいたいできた56.5%、合計86.9%「先言後礼」…よくできた13.0%、だいたいできた73.9%、合計86.9%であった。教員評価も肯定的評価の割合がどの項目とも向上した。	B	・教員評価についても評価が改善されてきているが、「よくできた」より「だいたいできた」という評価の割合がかなり高い点が課題である。次年度は「整理整頓」・「先言後礼」の「よくできた」の評価を上げるため、教員全員が求めるレベルについて共通理解をさらに図る必要がある。 ・また、「ベル着」についても「授業の準備をして席についている」というより高い次元を求めるレベルとして指導に取り組みたい。 ・「先言後礼」・「整理整頓」については、教員アンケートをもとにしっかりとできているクラスの表彰を行うなど、生徒の意識を高める企画を考えたい。	妥当である。	適切である。
	生徒課	授業を支える学習基盤を整える。(授業規律の徹底)(学習環境の整備)	・集会やHRを通じて、「授業規律」「学習環境」について継続的に意識改善を図る。 ・HR委員会や美化委員会で「授業規律」や「学習環境」の啓発活動を行う。 ・授業開始時に、授業担当者から継続的に声掛けを行い、注意を促す。	・「学校自己評価」や「授業評価」や「道徳教育アンケート」の回答で肯定的回答が8割以上。 (R2:学校自己評価「落ち着いた授業」54.7%、道徳教育アンケート「規範意識」92.3%、授業評価アンケート「ベル着」ほか71.3%)	・5月に実施した道徳教育アンケートの「規範意識」の項目では、98.7%の生徒が肯定的な回答をしている。地域からのマナーに関する苦情等の件数も今年度前半はほとんどなく、生徒の中に規範意識が醸成されていることがうかがえる。 ・生徒会執行部、HR委員会を中心に、しっかりと生活態度を身に着けた自律した集団を目指すことを今年度の目標に掲げ、取り組んでいる。	B	・「学校自己評価」の「落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている」に生徒の77%が肯定的な回答をしている。「生徒に社会のルールやマナーを教えている」には生徒の88%が肯定的な回答をしている。どちらの設問も年次が下がるにつれて高評価である。教員はどちらの設問にも9割以上が肯定的な回答をしている。 ・5月実施「道徳教育アンケート」の「規範意識」の項目には、すべての年次で肯定的な回答が9割以上で、生徒自身による自己評価は非常に高い。	B	・「落ち着いた授業」については3年次で4割の生徒が不十分と答えているが、全体的には昨年より数値が上がりが改善の傾向が見られる。教員の声掛けだけでなく、生徒会執行部やHR委員会でも年間活動目標のひとつに授業規律を掲げた。生徒の意識の向上にもつながったかと思われる。今後、授業規律から学力向上に向けての継続した取り組みが必要だと思われる。 ・交通ルールの遵守やマナーに関して、地域住民からの苦情等はあまり耳にしなくなり、生徒の中で規範意識の高まりがうかがわれる。	妥当である。	適切である。
	教育相談室	各教科等において誰にも「わかりやすい」ように授業にユニバーサルデザインを導入する。	・「高等学校学習指導要領解説に示される各教科等における学習上の困難さに応じた指導の工夫例」を全教員に配付する。 ・その工夫例を参考に、各教員が本校の生徒向けに工夫した取り組みをする。	・各教員がそれぞれの授業において、工夫した取り組みを1種類以上している人数が70%以上。 ・またその取り組み内容をまとめて教員全体に紹介できている。	・各教員がそれぞれの授業において、工夫した取り組みを1種類以上している人数が83.3%で、生徒支援が進んでいることがうかがえる。 ・その取り組み内容をまとめて教員全体に紹介する予定である。	B	・各教員がそれぞれの授業において、年間通して工夫した取り組みをしている人数が87%で、生徒支援が進んでいることがうかがえる。 ・その取り組み内容をまとめて教員全体に紹介し共有したが、さらに工夫が見られるので今後も紹介を続けていく。	B	・ユニバーサルデザインを意識して各教員が工夫した取り組みをしている割合は最終的に87%で、生徒支援は進んでいると思われる。その一方で「特にアイデアがない」「考えていない」との回答もある。個々の意識の差はあるが、取り組み内容を共有していく必要がある。	妥当である。	適切である。
	1年次	学力向上…生徒が活き活きと取り組む授業を目指し、学力の向上を図る	・1人1台端末のタブレットを活用した授業改善を推進する。 ・総探、LHR等でタブレットを活用したアクティブラーニングを実施することで、対話的で深い学びを実現する。 ・課題提出を徹底し、年間を通して継続 ・学習環境の整備(授業に集中できる学習環境作り、教室整備)	・学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、ICTを活用するなど、教え方の工夫が85%を超えている」の肯定的評価(1年次)が85%を超えている。 (R2:3学年全体70%) ・年度末平均評点65点以上。	・タブレット端末は教科ごとに活用が見られ、特定の生徒に対するオンライン授業への対応も行うことができた。 ・コロナの影響もあり、タブレットを用いた対話的な活動が制限されていたため、年度後半に向けて研究を進めていきたい。 ・課題提出状況が悪い生徒(第1回調査時70%代以下)の生徒については第2回調査前に個別に面談を実施した。第3回調査に向けて再度課題提出を徹底したい。 ・整理整頓ができていない生徒に警告を発するなどして、教室周りの整備を行い、良好な学習環境となっている。 ・1学期平均評点68点。	B	・学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、ICTを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的評価(1年次)は92%となり目標を達成することができた。 ・コロナの影響もあり、タブレットを用いた対話的な活動が制限されていたが、可能な範囲で取り組んだ。 ・課題提出状況が悪い生徒(第3回調査時80%未満)の生徒については第4回定期調査前に全員集め課題提出に関しての振り返りを行い、第4回定期調査の提出率は学年全体で80%となった。また、赤点を複数抱える生徒については個別に面談を行い大幅な改善が見られた。 ・不要な掲示物を外す、個人の荷物の整理など教室整備を徹底し、良好な学習環境を作ることができた。 ・1学期平均評点68点、2学期平均評点65点となり、年度末平均評点は65点以上は達成できる見込みである。	A	・年度当初の目標は数値面からも概ね達成することができた。今年度の目標は引き続き3年間継続して達成していきたい。 ・タブレットの活用は試行段階のため、来年度以降も積極的に活用し、他校の事例も参考に活用方法を検討していきたい。 ・学校自己評価アンケートの「家庭学習時間を確保している」の項目が他学年よりは高かったものの、低水準のため次年度の課題として対策を考えていきたい。 ・人間関係で悩みを抱える生徒が多く、欠席や遅刻に繋がる事例が多かったため、LHRなどを使いコミュニケーションスキルの向上を継続して行っていきたい。	妥当である。	適切である。
3年次	生徒の希望進路を実現させる。	・各担任・教科担当を通じて、授業に積極的に参加、理解を深めさせる。その際、「わかる授業」にむけて各自創意工夫を行う。 ・社会人として必要な礼儀の「あいさつ」・正装(頭髪を含む)を普段の学校生活のさまざまな場面で指導を行う。(特に授業前後、集会などで指導を行う) ・複数回(1学期中に3回・2学期中2回)の面談を通じて、早期に生徒の希望進路を把握し、進路実現に向かっての指導を行う。	・授業への参加や「わかる授業」に関するアンケートを1学期中に2回、2学期中に1回実施し、70%を超える生徒が授業に満足している状態となる。 ・教員の指導を重ね、1学期中に2回、2学期中に1回、生徒に対してあいさつ、服装についての達成度のアンケートを実施し、70%を超える生徒がきちんとできている。 ・各生徒に年間5回の面談を実施、早期に進路希望を把握、その実現に向けて具体的な動きがとれている。	・1学期の調査は2回の予定が1回になってしまった。そのアンケートの結果、「わかる授業」に関しては、「理解できる」「だいたい理解できる」の項目を79.3%の生徒が選択していた。2学期以降行うアンケートでは、さらに理解を深める割合を増やす工夫を各担当教員に呼びかけていく。 ・あいさつや服装を整えるといった学校生活に関して「いつもしている」「だいたいしている」の項目を85.5%の生徒が選択している。ごく一部の生徒以外は落ち着いた学校生活を送っていることが読み取れるが、更なる徹底を呼び掛けている。 ・LHRなどで各担任が1学期中に少なくとも1人当たり2回は面談を実施し、生徒一人ひとりにきめ細やかな進路指導ができた。	B	・授業への参加や「わかる授業」に関するアンケート項目では、「できる」「だいたいできている」をあわせて、85.7%の生徒が選択した。 ・あいさつや服装を整える取った学校生活に関して「いつもしている」「だいたいしている」の項目を92.7%の生徒が選択していた。ごく一部の生徒以外は落ち着いた学校生活を送っていることが読み取れる。 ・2学期中も各担任を中心にクラスの生徒に複数回の面接を実施、生徒一人一人にきめ細やかな進路指導ができ、在籍者の93%の進路が決定している。	A	・年度当初の目標は、目標数値を大幅に上回り、達成できた。最終学年でもあり、下級生の模範となるような学校生活を送った生徒が大半であったと思う。しかし、ごく一部の生徒は年度当初からの指導にも関わらず改善をほとんどすることなく卒業を迎えてしまった。 ・担任を中心に、生徒は適時複数回にわたって教員から面談を受けた。ほとんどの生徒は自分の進路を決定することができた。 ・普通科だけの年次の最後であったが、多くの生徒は進路決定後もほほ休むことなく学校生活を送ることができた。(第4回定期調査後の特別授業期間を除く)	妥当である。	適切である。	

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価		学校関係者評価				
					達成状況(中間)	評価	達成状況(最終)	評価	結果の分析及び改善策	評価の妥当性	改善策の適切さ
2	進路指導課	地域と連携したキャリア教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間「セトリー」で、地域に根ざした探究活動を実践する。 地域の各種団体と情報交換し、効果的・継続的な連携による学習活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年次・科・コースの活動で、それぞれ1か所以上の連携先と協力して、地域と連携した教育活動が行われている。 外部講師による授業や講演が年間の学習計画の中で効果的に実施されている。(各講座5回以上) 今年度から新たに取り組む企業インターンシップについて、10か所以上の企業と連携して実施する。 生徒対象アンケートで地域と連携した教育活動に関する項目で肯定的回答が75%以上。(アンケート対象を2年次全体に拡大)(R2:国進コース平均90.5%) 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次は市役所・アスエコ・市内5事業所等と連携して、セトリー・地域企業見学・聞き書き・交流会を予定、新規に備前日生信用金庫と連携。2年次普通科は瀬戸内市移住促進協議会、長島愛生園等と、生活ビジネス科は日本ITビジネスカレッジや公民館、市役所と連携した探究学習を展開中。 1学期は各年次の講座に、キャリア・サクセス、朝日医療大学校、さんぼう、日本ITビジネスカレッジ、瀬戸内市移住促進協議会、自然電力、むすびの会等から外部講師を招いて授業を行ったが、緊急事態宣言期間中は制限があり、一部延期やリモートでの開催にした。 企業インターンシップは7月下旬に、13の企業と連携し、23名が参加して実施した。 初回の生徒対象アンケート(2年全員)で、「自分の住む地域のことを好き」への肯定的回答は89.5%(「とても」42.4%)、「地域や社会を良くしたり、活性化に貢献したりしたい」への肯定的回答は87.1%(「とても」40.0%)である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年次は市内の方34名(内、市役所職員23名)の協力を得て聞き書きを実施した。11月には科・コースごとに5事業所への企業見学を実施した。また、1年次普通科は市役所・アスエコと連携して「瀬戸内市オリジナルSDGsカードゲーム」を完成させた。高校生が自治体と連携して作成したのは全国で初めてで、今後市内の小中学校に出席授業を計画している。 2年次普通科は3グループが地域と連携した探究活動を行い、1月のセトリー実践報告会(初のオンライン開催)で発表。2年次情報ビジネスコースは日本ITビジネスカレッジと連携してITスキルを生かしたポスター作成に取り組み、地域からの依頼にも応えた。2年次保育・食物コースは、認知症サポーター養成講座や福祉施設と連携した福祉講座に取り組み、オンラインで地域の高齢者と交流した。 企業インターンシップは7月下旬に、13の企業と連携し、23名が参加して実施した。 2月に実施した生徒対象アンケート(2年全員)で、「自分の住む地域のことを好き」への肯定的回答は80.5%(「とても」34.5%)、「地域や社会を良くしたり、活性化に貢献したりしたい」への肯定的回答は74.7%(「とても」28.7%)である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> セトリーとして地域と連携した探究活動が、1、2年全体に広がり、科・コースの特性を生かした内容にすることができた。さらに、3年次でも昨年度セトリーの4グループすべてが何らかの形で継続研究や外部への発表を行うことができ、継続性と発信力が高まっている。 コロナの影響で延期や中止もあったが、オンラインを活用した活動も広がった。 来年度普通科・生活ビジネス科が3学年そろった体制で、持続できる探究学習の計画を完成させる必要がある。 2月に実施した振り返りのアンケートでは、おおむね目標基準に達したものの、年度当初に比べて減少した。コロナの影響で計画の中止やオンラインへの変更など、当初の地域との交流の計画について、制限が生じたことが影響したとも考えられる。今後、生徒の活動に即したアンケートになるよう、内容の改善や対象、方法の見直しを行いたい。 	妥当である。	適切である。
	広報室	本校志願者140人以上を達成する。(R2:進学状況調査1次=128、2次=132、特別=139)	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動や生徒の様子について、在校生や保護者、瀬戸内市内をはじめとする地域に向けて発信する。 情報発信は、ホームページのブログ、Facebook、邑久高通信(年間6回以上発行)などによる。 ブログを年間250回以上更新する。(R2:228回) オープンスクールへ参加する中学3年生が240名以上。(R2:224名・1回) 地区別学校説明会を年間8回以上開催する。(R2:8回) 	<ul style="list-style-type: none"> 邑久高通信を年間6回以上発行する。(R2:4回) ブログを年間250回以上更新する。(R2:228回) オープンスクールへ参加する中学3年生が240名以上。(R2:224名・1回) 地区別学校説明会を年間8回以上開催する。(R2:8回) 	<ul style="list-style-type: none"> 8月末で邑久高通信3回発行。邑久高通信の配布先として、今年度より在校生保護者へ配布、PTA補導の際に施設への配布など配布先も拡大。学校パンフレットについては塾関係にも送付しているが今年度は3か所追加。 8月末でブログ107回(月平均21.4回)。Facebookは51回(月平均10.2回)。新たな媒体による情報発信として、インスタグラムの研修に参加し活用を検討中。 オープンスクールの参加者数(中3生)は第1回が127名。コロナの影響があるが、第2回を開催する方向で準備中。 学校説明会は年間8回以上を計画していたが、コロナの影響で変更。(6月に1回、7月に1回(オンライン)、10月以降に2回予定。)オンライン説明会(zoomを利用)を7月3日に実施。今後も反省点を活かして実施する価値あり。申込方法については中学生にとって分かりやすく、担当者も集計しやすい形(Google Formsを利用)へと改善を図ることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 12月末で邑久高通信を5回(No.4~No.8)発行した。2月に特別号(瀬戸内市中学1、2年生向け)、3月にNo.9を発行予定。 12月末でブログ201回(月平均22.3回)。Facebookは83回(月平均9.2回)投稿。新たな媒体による情報発信として、インスタグラムによる情報発信を11月から実施した。12月末で25回投稿。 第2回のオープンスクールについては、コロナの影響で日程変更し10月に実施。参加者数(中3生)は74名。体験授業では日本ITビジネスカレッジや朝日医療大学校から講師をお招きし、今までにない講座を開講できた。 学校説明会は年間8回以上を計画していたが、コロナの影響で変更。2学期は10月、11月に1回ずつ実施。また11月11日には中学校教員対象の学校説明会(10名参加)を実施した。 今年度、普通科の美術重視モデルをよく知ってもらい、高校選択の参考にしてもらうために、美術重視モデル体験講座「実技基礎体験講座」を7月3日(土)、10月23日(土)の2回行い、延べ18名の中学生の参加があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学校卒業見込者の進学希望状況調査(第2次調査)では、普通科33名、生活ビジネス科75名の計108名であった。生活ビジネス科で1倍を超える一方で、普通科では昨年の高倍率の反動を受けた形で1倍を下回った。この点を除けば、重点目標に掲げた取組は概ね行うことができた。 一方で、達成状況に掲げた、「オープンスクールへ参加する中学3年生が240名以上。」については2回の計で201名であった。また昨年と同回数を目標にした「地区別学校説明会を年間8回以上開催する。」についても新型コロナウイルス感染症の影響で本校のみで4回(オンライン説明会を含む)の開催にとどまった。参加者数は延べ169名。(昨年度延べ242名) 重点目標である邑久高高校志願者140名以上を達成するためには、継続して情報発信できる体制を整備することが重要である。またオープンスクールや学校説明会が中学生や保護者にとって魅力的に感じ、参加してもらえるような工夫も必要である。 	妥当である。	適切である。
	2年次	地域連携活動を通して、自分の専門分野を発見し進路目標につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトを活用して、セトリーやインターンシップの振り返りを行い自分の適性や進路について考えさせる。 普通科はセトリーのテーマを進路と関連するものにし、発表だけでなく関連する大会にも積極的に参加させる。 進路に関連するイベントやボランティアに参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が志望理由の下書きを完成させる。 アンケートでセトリーやインターンシップが進路選択に役に立ったという質問に対し肯定的な意見が90%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> セトリーについて、普通科では、自分の進路志望にあわせて3つのグループで活動している。生活ビジネス科では、情報ビジネスコースが、日本ITビジネスカレッジと連携しパソコンでオープンスクールのチラシを作成したり、保育・食物コースが、コミュニケーション講座を行ったりする(コロナの影響で瀬戸内市中央公民館と連携した公民館講座は中止)など、それぞれで貴重な経験を積んでいる。 インターンシップには希望者の25名が参加し、貴重な体験をすることができた。 12月以降、志望理由書の下書きをしていく予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 普通科は3グループが地域と連携した探究活動を行い、1月のセトリー実践報告会(初のオンライン開催)で発表。 生活ビジネス科は土曜講座、放課後を利用して検定に向けて補習を実施し98%の生徒が1つ以上資格を獲得することができた。面接練習も開始し志望理由書の下書きを作成中である。 企業インターンシップは7月下旬に、13の企業と連携し、23名が参加して実施した。瀬戸内市インターンシップにも2名が参加した。 生徒対象学校自己評価アンケート(2年全員)で、「邑久高校の進路に関する学習(進路ガイダンス、セトリーや進路講座など)は、進路を考えるのに役立っている。」への肯定的回答は89%(「とても」40%)であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の目標を概ね達成できた。セトリーの活動だけでなく黒島のキャンプや朝鮮通信使行列といった地域の行事にも積極的に参加し地域に貢献する意識が育ちつつある。検定の合格率も自信につながっていると考える。課題としては数名コミュニケーション能力に不安のある生徒に対して進路保証をいかにするかで、面接練習やアルバイトなどを活用しながら支援していく必要がある。 	妥当である。	適切である。
3	生徒課	部活動や生徒会活動等の推進	<ul style="list-style-type: none"> 1年次回教員と部活動顧問が連携し、1年次生の部活動の加入率を上げる。他校とも積極的に関わるなど活動の充実を図る。 生徒会活動、委員会活動やボランティア活動を充実させ、活動の「見える化」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次生徒部活動加入率「学校自己評価」の回答で肯定的回答が前年を上回る。(R2:入部率45.9%、学校自己評価「部活動・生徒会活動が活発」(生徒)79.2%) 	<ul style="list-style-type: none"> 5月時点での1年次生の部活動加入率は70.6%であり、多くの1年次生が部活動に積極的に取り組んでいる。ただ、今年も新型コロナウイルス感染症による部活動の停止や対外試合の制限等、十分な活動を保障できていないのは残念である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「学校自己評価」の「部活動や生徒会活動は活発に行われている」に生徒の87%が肯定的な回答しており、年次が下がらなかつた高評価である。教員は79%が肯定的な回答であるが、改善の余地があると感じている教員も少なくない。 年次当初の1年次生の入部率は70.6%であった。 活動の「見える化」については、必要に応じて掲示板を生徒昇降口に設置し、生徒が活動を目にするような取り組みを徐々にやっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は例年以上に1年次生の入部率が高かった。担任や部活動顧問による熱心な指導によるものと思うが、入部率をあげるとは、学校の活性化につながるだけでなく、生活指導へも有用である。学校魅力化の推進役にもなる。来年度も入部率を上げ、部活動の充実を図っていききたい。 今年度も活動停止や対外試合の自粛等、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。しかし、そういう中でも野球部やバスケットボール部、陸上部やヨット部などをはじめとして、半数ほどの部が他校との交流を積極的に行っている。 活動の「見える化」は、来年度はより多くの人の目に触れられるよう、「場所」や「時間」等やり方を工夫していきたい。 	妥当である。	適切である。
	教育相談室	生徒に実施する「生活アンケート」の項目を各課と連携して見直し、多面からの生徒支援につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回実施している「生活アンケート」の項目を学校行事に関連したり、各課と連携したりして見直す。 「生活アンケート」実施後は、担任・年次主任・係に加えて各課でも情報共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各回の「生活アンケート」を各課と連携して見直した項目にしている。 「生活アンケート」実施後に、教員全体で情報共有できるような処理をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回の「生活アンケート」は各課と連携した項目にし、アンケート結果(デジタルデータ)は教員が閲覧できるようにし、必要に応じて専門家につないでいる。 第2回の「生活アンケート」の実施は千町祭後に行う予定である。(今年度は延期になったため、実施時期が遅れている) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 第1回、第2回の「生活アンケート」は各課と連携した項目にし、アンケート結果(デジタルデータ)は教員が閲覧できるようにし、必要に応じて専門家につないでいる。 第3回の「生活アンケート」の実施は3学期始業2週目が理想だったが、感染症の流行や不安による欠席者が多く、本来のアンケート主旨が予測されるため実施できていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「生活アンケート」は生徒が安心して学校生活を送っていく権利が脅かされていないか、の確認の機会として実施しているので、今後も学校行事やその他の状況に合わせて項目も時期も見直していきたい。 「生活アンケート」実施後、情報共有の機会を定期開催にしたい。 	妥当である。	適切である。